

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

# 音楽とは 横への感性なり!

1

月号

2020年1月1日  
編集・発行/  
ウィーン岐阜合唱団

## 新年あけまして おめでとうございます

昨年暮れの“第九” 福井、高山、東京も応援を得て合唱団総勢 150 余人の迫力ある素晴らしい演奏会になりました。オーケストラの音量も抑える事もなくメンバーも伸び伸び演奏できた事と思います。高山“第九”に至っては、500 余人の合唱団員、声量に圧倒される演奏になりました。

オーケストラと共に歩む我が合唱団は、自力で昨年暮れの人数を目指し、オーケストラも伸び伸び演奏できる環境を整えていきたいと思っております。

幸い、山田秀子さんを中心に素敵な団員募集のチラシを作ってくださいました。身近な方にお誘い下さいます様お願いいたします。

今月は、新入団員を含めて、スタートラインを同じくして練習が始められます。年間を通じて無理なく入団して頂けるチャンスでもあります。今年は、豊かな音量でオーケストラに負けない音楽作りをめざしたいと思っております。

夏の定期演奏会は、素敵なソリスト4名を迎えて、モーツァルトの“戴冠ミサ”と我が恩師中田直宏先生の作品“我がひとに与ふる哀歌”です。

壮大な自然を讃美する素晴らしい作品です。先生からも直接指導を受けられる機会を作りたいと思っております。

新年からのより良いスタートが出来ます事を願っております。

音楽総監督 平光 保

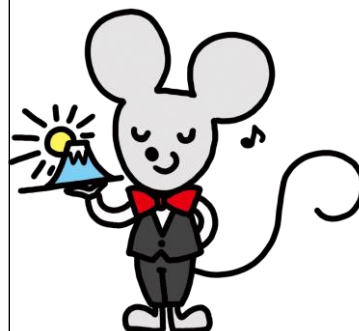
### ウィーン岐阜合唱団後期 皆勤者

#### 岐阜本部

テナー 白木政春 田口舘男  
バリトン 白井博育  
ソプラノ 辻 多恵子  
アルト 国枝麻理 中村裕子 長縄郁代 松村豊子

#### 大垣支部

テナー 宇佐美利夫  
ソプラノ 河田尚美  
アルト 岡崎和子





# 団員の皆様 新年あけましておめでとうございます

ウィーン岐阜合唱団 団長 白井博育

マエストロ平光の“第九演奏”の躍動感溢れる指揮が終わり、若干の静寂の後、長良川国際会議場の1000人を超す満員のお客さまから、熱烈な拍手、喝采、ブラボーの嵐が沸き起こりました。お膳立ては揃っていました。チケット販売枚数は優に1000枚を超え、登壇者は団員126人で総勢148人の大所帯です。入場者数は、1040人とこの数年間の最高を記録しています。これは、全ての団員がチケット販売に熱き心でご努力された結果であり、本当にありがとうございました。その1000人を超すお客さまの感動の拍手は、やがて団員の心にも還流し感動が感動を呼び、お客さま、オケ、合唱団を包み込み会場全体が一体化していくのを感じました。私の学生時代の合唱の仲間が「第九は、なかなか良い演奏に出会えない時が多いが今日の演奏ならまた聴きたい」と感想を漏らしていました。更にマエストロからは「今年の演奏会、第九は良かった」と言われ、「毎年、最高と言っていますがそれは紛れもない事実です。去年よりも最高で、毎年進化しています」と高い評価を頂いています。

もう一点上げておかなければならないのは、ちょうど第九演奏会の1週間前に開催された飛騨・高山千人の第九です。飛騨・高山の皆さんが、人、物、金を注ぎ込んで、まさに手造りの第九を創り上げられました。わが団も3年前から高山と連絡を取り合い、実行委員の皆さんのご努力で100人以上の団員がその手造りの第九に参加でき感動と、喜びを分かち合うことができました。これもわが団の昨年の活動の中でも特筆すべき事だと思います。

演奏会において、毎回行っております東日本大震災への義援金は59,357円となり今回も真由子先生を通じて福島へお送りさせていただきます。因みに2011年からの義援金の総額は現在、1,934,618円になりました事をご報告いたします。

## 昨年の合唱団の関係した行事等を振り返りますと、

・2019年練習開始(1月10日岐阜、1月11日大垣)	・夢のプロオーケストラ(サラマンカホール 9月15日)
・オペラ杉原千畝物語(ぎふ清流文化プラザ1月26日・27日) ユダヤ難民役で出演	・秋の紅葉ツアー(福井県南越前町 10月27日・28日)
・春の合宿(コージュ高鷲 5月25日・26日)	・ねんりんピック(岐阜メモリアルセンターで愛ドーム)
・ねんりんピック(ぎふ清流文化プラ 7月9日)岐阜県民の歌	・垂井町音楽祭「第九」(垂井町文化センター11月24日)
・リトアニアNOW2019(ぎふ清流文化プラザ 7月26日)人道の桜	・飛騨高山千人の第九(飛騨・世界生活文化センターコンベンションホール 12月15日)
・第22回定期演奏会「水のいのち、ラシーヌの雅歌」(岐阜市民会館 7月28日)	・第21回第九演奏会「第九、ナブッコ、大地讃頌」 (長良川国際会議場 12月22日)

大変多忙な2019年でした。このような行事を通してウィーン岐阜合唱団は、毎年着実に進歩し続けていると確信しています。

## 新しい令和の時代になり心も新たに始動する2020年の行事予定をみてみますと、

- 1 2020年練習開始(1月9日岐阜、1月10日大垣)
- 2 春の合宿(コージュ高鷲 5月23日・24日)
- 3 第10回ヨーロッパ“第九”音楽・友好の旅(ブダペスト・スロヴェニア・ザルツブルク・ウィーン 6月29日~7月10日)
- 4 第23回定期演奏会「モーツァルト戴冠ミサ、わがひとに与ふる哀歌」(岐阜市民会館 8月10日)
- 5 夢のプロオーケストラ(サラマンカホール 10月25日)
- 6 開催県として、ねんりんピック岐阜2020総合開会式(岐阜メモリアルセンター長良川競技場 10月31日)
- 7 第22回第九演奏会(長良川国際会議場 12月20日)

等々他にも予定しております。

今年も多く大きな行事も入っております。団員の皆さんが都合のつく限り、一番大切な毎週の練習に参加して頂きたいと思っております。ウィーン岐阜合唱団にとって2大イベントである夏の定演、第九演奏会に多くの団員が登壇し、なお且つ他の行事にも参加頂けたらと思っております。今年も団員どうしの交流を活発にし、歌う事によって人生をより豊かにし、ウィーン岐阜合唱団に入っていて良かった、これからも続けたいと思われる団運営を心がけていきたいと思っております。団としての音楽的レベルアップを目指し、平光総監督、伴先生をはじめ指導陣に学び、私達団員一人一人が切磋琢磨し、「戴冠ミサ、わがひとに与ふる哀歌」をしっかり練習して夏の定演を成功に導きたいと思っております。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

# 心一つに、声一つに歌う喜び

大垣支部 インспекター 河田 尚美

楽譜も読めない私が、第九を歌ってみたい一心で大垣支部に入団して早や 15 年。ウィーン岐阜合唱団のおかげで合唱の楽しさを知り、私の人生は本当に彩り豊かなものになりました。

15 年間のウィーン岐阜演奏会、それぞれに思い出がありますが、特に印象に残っているのが次の二つです。

一つ目は、合計 175 名（団員 149 名、その他 26 名）が登壇した 2009 年の第九です。最前列はベタを使つての 7 段！！登壇に苦労しました！お客様は二階も満席。後ろの通路などにパイプ椅子を出し急場をしのいだという嬉しい悲鳴の本番でした。（でも後で会館側から消防法の関係で注意を受けた覚えがあります）

もう一つは、2010 年夏の「ぞうれっしゃがやってきた」です。これは伴真由子先生の代わりに舞台の演出を頼まれ、場面設定やら合唱団の動きやらバックの照明やら効果音をどこでどう入れるかなど、いろんなビデオを見たりテープを聞いたり、苦労して考えました。無事本番が終った時は本当にホッとして涙が出ました。でもこの時苦労して作った演出表と効果音の CD（元団員 H さんの協力で作製）のお陰で 2018 年の「ぞうれっしゃ」はスムーズに走らせることができました。

いずれにしても、私にとって木・金週 2 回の練習は楽しく、待ち遠しく、昨年 2 月に風邪で 1 回ダウンした以外は、何年もずーっと休んだことはありませんでした。

さて、私が入団した頃より良くなったと思えることを幾つかあげてみます。（5 年前にも書きましたが）

- ① 練習中の私語が減った。
  - ② 先生が指揮を止めた時、歌声も前より早く止まるようになった。
  - ③ 岐阜と大垣を往来する人が増えた。
  - ④ 声出しやストレッチなど自主活動が増えた。
  - ⑤ 練習中に鳴り出す携帯の音が減った。
- ① は、私がインペクになってからいつも新聞に書いたり、皆さんの前で何度も話していることですが、「私語をしない＝聞く」ということは「周りを聞いて歌う」合唱には不可欠な要素だと思います。普段の練習時から、先生の注意や前に立った人の話を「聞こう」という意識を持ち、他のパートが歌っている時も私語などせず自分のこととして静かに耳を傾けようという意識を持てば、合唱の中でも「聞いて歌う」ことができるようになると思います。自分の好きなように気持ちよく歌えばいいのではありません。お互い聞いて歌って声一つに合わせる、そこがソロとは違う合唱の醍醐味でもあります。
- 入団した頃、先生が「ビー・クワイアット！」「リッスン・トゥ・ミー！」といちいち叫ばなければいけないほど私語が多いのに私はびっくりでした。そんな頃より減ってきましたが、今でも先生の指導中に私語が聞こえることがあります。もっともっと「聞く」ことを大切にしてください。
- ③ もまた 15 年前に比べると大いに良くなった変化だと思います。初めに大垣の私が岐阜へ行くように。そのうち少しずつ岐阜の方も大垣へ来たり、私のように両方行ったりする方も出てきました。今ではごく普通の光景ですが、これからもどなたも岐阜・大垣の枠を超えて（時間さえあれば）練習に参加されると良いと思います。

以前にも書きましたが、目の前に素晴らしい楽譜があっても何も起きません。人が演奏してこそ、歌ってこそ、その曲に命が宿り、感動が生まれます。私たち一人ひとり声も違い、年齢も経験も違いますが、それを補い合いそれぞれの力と心を合わせて一つの“高み”を目指すのが合唱の良さだと思います。そこに喜びや感動があると思います。次の定演、難しい曲ですが、一人ひとり自分の目標を持ち、お互いに聞いて歌う意識を持って頑張ってください！！ 歌うことは、大好きなので合唱はやめません。いつかどこかの会場でお会いするかもしれませんね。心一つに声一つに、さあ、歌いましょう！！

# 高らかに鳴り響いた歓喜の歌!!



飛騨世界生活文化センター 本番風景

## 「飛騨高山千人の第九」 大成功!

飛騨高山千人の第九実行委員  
杉江 功

Prestissimoの最高の盛り上がりで演奏が終わると一瞬の静寂のあと1300人の満席の会場からは嵐のように鳴り響く拍手とブラボーの声、500人の登壇者とお客様が一体となった感動の坩堝に。拍手はいつまでも鳴りやまず飛騨高山千人の第九は大成功!!素晴らしいコンサートでした。

開演前に控室から外を眺めると丘の上の飛騨世界生活文化センターへの道は会場に向かう車の列。このコンサートは、ただものではないとの予感が。そして登壇、コンベンションホールの特設ステージから会場を見ると、すでにほぼ埋まった状態。それでも、入場してくるお客様、さすが満席となると演奏前から興奮してきます。客席脇を通ってのオーケストラの入場が始まるとその数100人近く、コントラバスの9台に代表されるすごい編成をいやおうなしに実感することに。これだけのオケで歌えると思うと身震いがしてきました。

いよいよ、開演。会場の照明が落ちたと思ったら、笛を先頭に、太鼓の奏者がサプライズで入場、素敵な演奏の披露でした。そして「笛や太鼓には人が集まる、すべての壁を取り払って、一つになってまとまるのが今日の演奏会の目的です。この中心になったのがウィーン岐阜合唱団、なにより第九を愛する平光保さんの指導でまとめることができました」と実行行委員長の中村隆夫さんの万感の思いが詰まった挨拶がありました。

いよいよ平光保先生が拍手の中登壇して第一部の開演です。令和の最初の年を祝うにふさわしい先生作曲「祝賀」の清々しい演

奏が始まり、フィンランディアへと続きます。

そして第二部、「第九」の始まりです。大編成のオーケストラの演奏はさすがに重厚感に溢れました。そして第四楽章、砂田直規さんがすばらしいバリトンを聞かせながら入場、合唱団に向かって「Freu-de!」と呼びかけて合唱が始まりました。盛り上がる演奏にオケもソロも合唱もどンドン一つに!! 知らず知らずのうちに感動の涙が溢れてきました。

それにしても砂田さんや水口聡さんら世界的なソリストたち、前日に編成された、しかも、プロ、アマ混成のオーケストラ、そして当日初めて全員がそろったばかりの合唱団。これを一つにまとめ指揮された平光保先生には、ただただ敬服です。第九を知り尽くした平光先生の指揮だからこそ実現した素晴らしい演奏でした。レセプションで砂田直規さんが「ワンチームで演奏できた」と振り返るほど、プロでも印象深い演奏会であったと思います。

3年前の高山での紅葉ツアーがきっかけで実現したこの演奏会、ウィーン岐阜の皆さんのこれまでのご協力とご支援がなければ実現しなかったコンサートです。ウィーン岐阜合唱団100人の登壇!!このインパクトも大きかったです。本当に団員の皆さんに感謝です。

ウィーン岐阜合唱で歌ってこそ、この貴重な経験ができました。そして、ウィーン岐阜皆さんと一緒に歌えたことは、この上ない幸せでした。ありがとうウィーン岐阜!!

## 飛騨高山 “千人の第九” に参加して

高山市在住 桐山 恒子

私は、高山市の合唱団“コーラス翠陽”に所属して日ごろ合唱を楽しんでいるものですが、かねがね一度は「第九」の合唱の席に連ねられたらと願っていましたが、傘寿を迎えた1昨年、夢の実現は無理と思い諦めていました。

ところが、時期を同じくして高山で「千人の第九」の呼びかけが始まり、すぐさま応募してあこがれの第九が歌えるチャンスと自ら感激していました。しかし、実際に練習が始まると、慣れない独語の歌詞が重荷になり練習を重ねるごとに自信がなくなってきました。でも、まわりの仲間の励ましや家族の応援を受けながら懸命に努力した結果、昨年12月15日の本番にアルトの一員として歌いることができました。第九の最終楽章が終わった瞬間、体の底からこみ上げてきた感動をこれからもずっと忘れないでしょう。

私にこの感動を与えてくれた要因の一つに“千人の第九”の指揮者平光先生の指揮のなさり様があります。私の目からは先生の指揮はダンスを踊っていらっしゃるような感じがしました。しなやかな手と腕の動き、激しく躍動する身体表現……。第3楽章まで合唱者の席で待機している間、指揮者の素敵なダンスに魅せられました。

私は、元中学校の体育の教師で曲想に合わせて身体ふりを考える授業などに関わってきましたので、そのような感じ方をしたのかも知れませんが、荘重な調べから歓喜の高まりへと展開する流れを見事に導かれた先生の指揮が強く印象に残りました。感動をありがとうございました。

終わりに恒例の岐阜における「第九演奏会」のご成功と先生がお元気で益々活躍されますことを心からお祈りしております。“第九”バンザイ！

### 県立郡上特別支援学校

## スクールコンサートDVDを見て

岐阜本部 テノール 森田 進

昨年、11月6日(水)ウィーン岐阜管弦楽団によるスクールコンサートが郡上市大和町にある県立特別支援学校で行われました。県内に特別支援学校が21校ありその中の1校です。

メンバーは、平光先生、伴和子先生、オケからは第1バイオリン2名、第2バイオリン2名、ビオラ1名、チェロ1名、コントラバス1名、合計9名のミニ編成です。

曲目は、サウンドオブミュージックからエーデルワイス、白雪姫、アイネクライネナハトムジーク等々。指揮者コーナーでは、生徒2名がハンガリー舞曲に挑戦しました。その後も楽器紹介もあり楽しい時間があっという間に終了です。生徒30名程、教師と一部父兄で20人、合計50人程の参加でしたが、生徒達全員が何らかの障害を持っている子ばかりで、途中奇声を上げる子、落ち着かない子で、演奏会が始まる前には心配されましたが、ひとたび演奏が始まるとシーンとなり、

1曲が終わるたび大きな拍手で、特に指揮者体験した5年生くらいの女の子は終わった後、大きな声で“楽しかった”と、言っていました。ほとんどの子が大きなコントラバスを真近に見て、その音の低さにびっくりしていました。また、コンサートマスターの平光真彌さんが、客席に入り生徒の前でバイオリンを演奏すると、その子は喜んで目を輝かしていました。今までに、スクールコンサートは保育園、小学校、中学校等で10数回見学し、お手伝いしてきましたが、今回は特に演奏者全員がとびっきり楽しそうでした。生徒達の純粋無垢な心に直接響くクラシック音楽、終了後の中学生の女の子の挨拶では、準備したメモを途中話まりながら、たどたどしく読み上げる場面では、思わず涙目になりそうでした。このようなコンサートが、もっと、もっと広がっていくと素晴らしいな……。

# 1～3 月練習予定

練習時間は 18:45～20:45 です(18:30 までに集合しましょう)

月 日	岐 阜	月 日	大 垣
1 月 9 日 (木)	長森コミュニティーセンター	1 月 10 日 (金)	大垣市南地区センター
1 月 16 日 (木)	長森コミュニティーセンター	1 月 17 日 (金)	大垣市南地区センター
1 月 23 日 (木)	長森コミュニティーセンター	1 月 24 日 (金)	大垣市南地区センター
1 月 30 日 (木)	長森コミュニティーセンター	1 月 31 日 (金)	大垣市南地区センター
2 月 6 日 (木)	長森コミュニティーセンター	2 月 7 日 (金)	大垣市南地区センター
2 月 13 日 (木)	長森コミュニティーセンター	2 月 14 日 (金)	大垣市南地区センター
2 月 20 日 (木)	長森コミュニティーセンター	2 月 21 日 (金)	大垣市南地区センター
2 月 27 日 (木)	長森コミュニティーセンター	2 月 28 日 (金)	大垣市南地区センター
3 月 5 日 (木)	長森コミュニティーセンター	3 月 6 日 (金)	大垣市南地区センター
3 月 12 日 (木)	長森コミュニティーセンター	2 月 13 日 (金)	大垣市南地区センター
3 月 19 日 (木)	岐阜市北部コミュニティーセンター	2 月 20 日 (金)	大垣市南地区センター
3 月 26 日 (木)	長森コミュニティーセンター	2 月 27 日 (金)	大垣市南地区センター

作曲家・作品・演奏家で綴る 365 日 (1 月 1 日分)

## 「ニューイヤー・コンサート」

毎年、元旦に音楽の都ウィーンでは、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団による恒例の「ニューイヤー・コンサート」が、ムジークフェラインザールで開かれ、その模様は日本を始めとして世界中にテレビ放映されている。

ところで、ウィーンの名物として有名なこの演奏会を始めたのは、今は亡き名指揮者のクレメンス・クラウスで、終戦の年つまり 1945 年の大晦日(ジルヴェスター・コンサート)と翌 46 年の元旦に第 1 回のコンサートが開かれた。クラウスは、敗戦の痛手からまだ回復してなかった、当時のウィーン市民の心に明るい希望の灯

をともしようとして始めたのだが、この演奏会によって彼らがどれほど力づけられたか容易に想像できよう。そして、それ以来ただの 1 回も休むことなく続けられ今では世界中の音楽愛好家が注目する催しとなっている。この演奏会で取り上げられる曲は、ヨハン・シュトラウス一家のワルツや同時代の作曲家らによるワルツやポルカといった楽しい音楽だが、必ず最後に演奏される「美しく青きドナウ」・父の「ラデッキ行進曲」がアンコールされ、聴衆の手拍子のうちに盛大に終わる事になっている。

〈名曲の初演日・名演奏家の初演を列記してみた〉参考までに

1846 年 シューマン：ピアノ協奏曲 初演

1879 年 ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 初演

1892 年 アルトウール：ロジンスキー (指揮者) 誕生

1894 年 ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲第 12 番 (アメリカ) 初演

1946 年 ウィーン・フィル：第 1 回「ニューイヤー・コンサート」開催

### あけましておめでとうございます

今年も、皆様のお力をおかりして、新しい記事等折に触れて載せたいと思います。よろしく願いいたします。

ウィーン岐阜合唱団 編集部 一同